

【生団連通信 Vol.1 創刊号】

～日本の経済について考える 異端とも言われる「MMT」とは？～

生団連では現在、会員の皆様への情報発信および外部（国会議員・省庁・メディア等）への広報活動として、会報誌とニュースレターを定期的に発行しております。

それらに加え、よりタイムリーに生団連の取り組みについて会員の皆様と情報共有したいという思いから、この度メールマガジン「生団連通信」を不定期ながら配信していくことといたしました。

※生団連会員様のみの配信となります。

重点課題に関する調査研究や時事問題についてのレポートなど、皆様にとっても有意義なものになるよう心掛けて配信して参ります。皆様からのご意見・ご感想をお待ちしております！



さて、創刊号となる第1弾は、生団連でも重点課題として取り組んでいる「国家財政の見える化」に関連した話題です。

皆様は【MMT：現代貨幣理論】という言葉が新聞やニュースで見聞きしたことはありますか？

「通貨の発行権限を持つ政府は、自国通貨建て債務の返済に必要なお金をいくらでも調達できるので、財政赤字を膨らませても問題ない」という理論です。注目されている一方で、「異端の学説」、「非常に怪しい」、「あり得ない！」などなど、懐疑的な報道も目立ちます。

MMTは主流経済学とは異なる内容であり、生団連事務局としても完全に首肯しているわけではありませんが、財政規律強化、歳入＝歳出、プライマリーバランス0など、従来の考え方と合わせて認識を深め、議論すべき事柄だと考え、関係論文や図書を研究しております。

これからも、日本経済の健全化および、わが国の持続的な発展の為にはどんな政策が必要か。生団連として皆様と議論を深めていきたいと思っております。
